

メンバー、ボランティア、学生
みんな仲間!

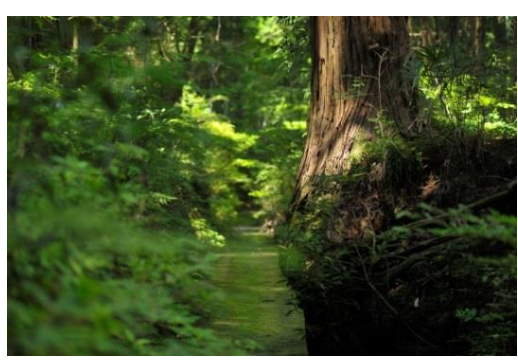
平成30年9月号



けやきと仲間 めーる

こころの病と闘っている人々と千葉大学生や周囲地域との協働の会 地域活動支援センター「けやきと仲間」
平成30年9月1日(第161号)

平成最後の夏の思い出



厚木 花火大会



日光 杉並木

撮影：齋藤 毅

天竜川



絵画 「ひまわり」



スクーリングに
参加しました。



毎朝あなたを思い出しながら
アイコーしています。



キンキンに冷えた
ビールに誘われて

～今年の夏～

Aさん

昨年の夏は、友人関係がこじれて、でも、その友人を失いたくなくて、悩み苦しみ、自分を心配する両親も呆れていました。その頃、通院に付き添ってくれたスタッフに主治医は「この方の症状は重いですよ。働くななんて無理です。」と断言しました。

そして今年の夏…けやきと仲間の夏休みの間、1日も休まずに仕事した（B型）自分がいます。幻聴が毎日忘れることなく襲ってくるのは昨年夏と同じですが、今年の夏のうちに、足の裏にできた深くて痛いウオノメを治したいです。もちろん、両親にも会っています。

Bさん

家内中心の夏でした。入院中の家内の面会（食事介助など）を第一優先して・・・夕方30分間の1人カラオケにハマっています。野球やサッカーの観戦にも出かけています。そして、ピアサポートも。相手の方の気持ちに気配りする努力をしました。躁状態の自分にもサポーターができていたみたいで嬉しかったです。

今後の家内のことも、ソーシャルワーカーが中心となり考えてくれました。そこまでに導いてくれた、地域の海保由美子さん（B型事業所サービス管理責任者）には涙が出るほどの感謝の気持ちでいっぱいです。

自分にとってとても有意義な意味のある夏でした。

Cさん

夏休みの間で、けやきは閉所していたので、特にすることもなく、ご飯を食べ、薬を飲み、ひたすらゴロゴロして、ぐったりしていました。2週間ぶりにけやきに行く事を目標にして過ごしていました。週末には、「ぼぼっと」で働く自分を想像して緊張したり、興奮したりしていました。

2週間ぶりのけやきは、いつもと変わらずゆったり過ごせました。そこには、ぐったりしていた自分はおらず、いつものボクでした。



川
柳

新盆のアイコーの味淋しくて
やときた園芸なのになに君いない
来年はどうかプルーン盗らないで
真つ黒のブラックベリー食べ頃だ
夏休み水やり率先ありがとう
ベルト丈サポート先で直せたよ
手作りの十手が今も物語る

ひなちゃん



はやきと仲間 60号